

# モノづくり市民講座・実習プログラムの開発と実践

千田進幸\*, 福森 勉\*\*, 山本浩治\*, 中西幸弘\*, 中木村雅史\*

\*工学研究科・工学部技術部 装置開発技術系

\*\*工学研究科・工学部技術部 電子・情報技術系

## 1. はじめに

平成17年8月、名古屋大学工学研究科創造工学センターでは技術職員と教員が連携して、モノづくり市民公開講座を立ち上げている。実習課題の「メタルクラフト・モバイル」はハガキ大の金属板を使って各人の自由な題材で作り出すモバイルづくりである。これは機械コース学部2年生の専門科目「材料加工学」の課外講習会として実施している実習を市民向けに「作る楽しさ」に特化させたものである。講習会の開催は中・高校生が休みとなる3月および8月である。当日は午前の部で教授による材料加工のやさしい「ミニ講義」と実習概要のビデオ説明により全体像を把握させている。午後の実習では技術職員により安全第一の適切なモノづくり指導がなされている。できあがった作品は参加者の構成の多様性を反映して、構想・アイデアがバラエティに富み、取り組む熱意が伝わるものばかりである。

## 2. 目的

本講座の目的は次の通りである。

- (1) 開かれた大学として、広く市民に創造工学センターを公開し、同センターの役割・活動状況を紹介する。
- (2) 社会貢献の一つとして、市民が学び、体験する機会を提供する。
- (3) 中学・高等学校と大学との連携活動の一つとして、中高校生が施設を利用し、大学教育に触れる機会を提供する。

## 3. 概要

本講座の概要を表1に示す。

表1 市民公開講座の概要

テーマ	一日大学体験・自由デザインで「モバイル」を作ってみよう
作り方	ハガキ大の銅板を使い、手作業中心で作る
開催時期・時間	中・高校生が休みとなる3月、8月 ・ 10:00~16:30
会場	創造工学センター
募集対象	一般市民（中学生以上、ただし小学生も親同伴なら可）
募集人数	20名
指導者数	6名
参加費	200円
作品相互鑑賞会	実習終了後に実施

## 4. タイムスケジュール

本講座のタイムスケジュールを表2に示す。

表2 市民公開講座のタイムスケジュール

【9:30～10:00】 ○受付	〈10階ロビー〉
【10:00～11:30】 ○開催挨拶 ○スタッフ紹介と参加者自己紹介 ○やさしい「材料加工学」 ○モビールの作り方 ○デザイン展開図の作成、銅板の切り出し	〈101講義室〉 佐藤一雄センター長, 他  佐藤一雄教授 ビデオ映像紹介と予行実習 安全メガネ, 帯ノコ盤
【12:30～13:00】 ○学生向けモノづくり作品展示会	〈電気工作室〉 実演有り
【13:00～16:00】 ○体験実習	〈機械工作室〉 指導・技術職員
【16:00～16:30】 ○作品相互鑑賞会	〈機械工作室〉 関係者全員

## 5. 作品相互鑑賞会

作品相互鑑賞会の模様を図1に示す。参加者の皆さんの作品を一点ずつ回覧させながら互いにコメントし合うのも楽しいものであり、他の人の感想がモノづくりのヒントになることもある。また、図2は講習会を終えた後の作品を前にした一コマであり、モビールづくりを十分に楽しんできたようすがよく伝わってくる。

## 6. おわりに

本市民講座のモノづくり体験は作り手の「夢」や「憧れ」あるいは「物語」を形にできるという特徴がある。それはたった一枚の金属板から自分の手を頼りに創り出す、感性・創造のモノづくりである。参加者の皆さんが本来持ち備えている創造力と一生懸命作ろうとする意気込みが見事に融合して、「キラリ」と光る素晴らしい作品が生み出されている。完成した作品に一人ひとりの満足そうな笑みがこぼれた。最後に、本講座開催は参加してくれた市民の皆さんに大学の技術職員を知ってもらうよい機会となった。我々は、大学でモノづくりに携わる職業人として、あるいは指導者として安全な作業への万全な体制をとりながらも、今後もいっそう、参加者が創造する力を十分に発揮できる柔軟でありながらかつ揺るぎない技術サポートしていかなければならない。そのために我々は絶えず職務の研鑽に心がけ、指導者としてのいっそうのスキルアップおよび意識の向上を図って行かなければならない。



図1 参加者の作品を見合う相互鑑賞会の模様



図2 実習終了後、作品を前にした参加者たち